

令和2年度学校教育自己診断 アンケート実施結果

今年度の学校教育自己診断は令和2年11月中旬から令和3年2月中旬に実施

()の中の数字は元年度&30年度の回収枚数

対象： 本校在籍児童生徒	回収枚数 A53 (64, 50) B11 (14, 15)
(A=小全, 中高 DE B=中高 FG)	
本校在籍教職員	回収枚数 67 (67, 59)
大阪整肢学院職員	回収枚数 49 (54, 59)
保護者	回収枚数 20 (19, 11) ※郵送にて実施

◎質問内容と肯定的な回答の割合

質問分類	質問内容	児童生徒 上段：A 下段：B	保護者	大阪整肢学院職員	教職員
①学校に対する意識	学校は楽しい。楽しみにしている。	89% 91%	100%	94%	100%
②生徒指導に関する意識	カウンセリングマインドを取り入れた生活指導を行っている？	—	—	—	69%
③進路指導に関する質問	将来について考えたことがあるか。	38% 91%	—	—	—
	適切な進路指導を行っている。	—	80%	57%	78%
④教育相談に関する質問	自分の考えや思いを話せる先生がいる。	68% 100%	—	—	—
	児童生徒が担任以外に相談できる体制がある。	—	—	—	72%
⑤道徳・人権教育に関する質問	友だちは大切・好き。	79% —	—	—	—
	命の大切さ、ルール、マナーを学んでいる。	— 100%	—	—	—
	学校は命を大切に作る心やマナーを守る態度を育てていると思うか？	—	100%	57%	89%
⑥学校行事に関する質問	学校行事は楽しい。	77% 91%	—	—	—
	子どもたちは学校行事に魅力を感じているか。	—	100%	78%	—
	魅力ある学校行事への工夫改善をしているか。	—	—	—	89%
⑦障がい理解に関する質問	先生が好き。	83% —	—	—	—
	先生はあなたの気持ちを理解している。	— 91%	—	—	—
	指導内容・指導方法を工夫・改善している。	—	—	—	86%
	学校は子どもの障がいを理解している。	—	80%	49%	—
⑧学習指導に関する質問	授業は楽しい。	91% —	—	—	—
	授業は分かりやすい。	— 100%	—	—	—
	授業で児童生徒の力を伸ばせている。	—	—	—	89%

	学校は子どものニーズに合った教育を行っている	—	100%	59%	—
	授業で児童生徒の QOL を高める取り組みをしている	—	—	—	79%
	個別の教育支援計画は活用されている。	—	—	—	69%
⑨ 情報提供に関する質問	大阪整肢学院との情報共有や研修企画等において、連携はうまく行われている。	—	—	—	58%
	学院・保護者と学校は必要な情報交換ができています。	—	70%	51%	57%
⑩ 学校組織に関する質問 (学校職員用)	教育活動について日常的に話し合っているか？	—	—	—	93%
	各学部・分掌の連携はうまく行われているか？	—	—	—	61%
	学校運営に個々の教職員の意見が反映されている？	—	—	—	29%
	小中高の一貫教育が行われていると思うか？	—	—	—	48%
	地域支援や交流校等との連携に適切に取り組んでいる。	—	—	—	72%
	体験学習等について関係機関との連携をはかり、その内容の充実を進めている。	—	—	—	78%
⑪ いじめに関する質問	いじめが起これば学校は真剣に対応すると思う。	55% 88%	70%	53%	67%

課題と今後に向けて

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防により、予定していた保護者参観を中止せざるを得ない状況が続いているため、保護者アンケートは郵送で実施した。
- ・学校に対する意識では、児童生徒、大阪整肢学院職員、学校職員、保護者ともに高い傾向にあり、児童生徒のほとんどが学校に行くのを楽しみにしていることがうかがえる。
- ・学校職員に対する、カウンセリングマインドを取り入れた生活指導については、昨年度同様、7割弱の学校職員が行っていると回答した。
- ・進路指導に関する質問では、児童生徒 A の回答は、「わからない」とした回答が 6割を占め、肯定的回答が 38%となっている。児童生徒 B では9割の児童生徒が将来のことについて考えたことがあると答えている。学校職員で適切な指導を行っていると考えている者は 78%でやや上昇、大阪整肢学院職員は昨年度の 26%から 57%と大きく肯定的評価が上がっている。
- ・教育相談に関わる質問では、今年度も児童生徒、学校職員共に肯定的評価が高い。
- ・道徳・人権教育に関する質問では、児童生徒学校職員が 8割前後の肯定的回答で、大阪整肢学院職員の肯定的評価も昨年度の 37%から 57%に上がっている。
- ・障がい理解に関する質問では、児童生徒・学校職員が 8～9割の数値に比べ、整肢学院職員の肯定的評価は 49%と低い、昨年度の 33%より高くなっている。
- ・学習指導に関する質問では、児童生徒・学校職員からは従来からも高かったが、今年度は大阪整肢学院職員からの評価が 32%から 59%に上がった。
- ・学校職員に対する学校組織に関する質問では、小中高の一貫教育に対する数値や学校運営に個々の

教職員の意見が反映されているかといった意識は横ばいであった。一方で、教育活動の改善に関する質問では、評価が76%から69%に下がった。

- ・いじめの対応に関する質問では、児童生徒 A の肯定的評価が、昨年度の78%から55%へ下がっているが、これも「わからない」との回答が4割を占めていることから、明確な指標につながっているかは疑問である。

- ・大阪整肢学院職員の回答の肯定的評価の数値の平均が昨年度の42%から53%に上がった。

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、校内で予定していた取り組みや行事の多くが中止または延期となった。そのため、教育活動に関する教職員からの回答は低くなったと見られるが、大阪整肢学院との連携については、大きく改善できていると考える。引き続き、各種研修や児童生徒支援について効果的連携に努めたい。

※今年度は、学校経営計画でも、校内の取り組みの外部発信について、重点をおいて取り組んだ。次年度は、外部への発信について、教職員・保護者・大阪整肢学院職員への項目を加えるよう検討したい。